

10月	700	514	468	8	7	1,697	1,388	50	227	134	129	589	4,214
11月	764	485	479	10	5	1,743	1,335	44	183	131	108	600	4,144
累計	6,782	4,253	4,523	91	65	15,714	11,985	399	1,773	1,119	1,043	4,742	36,775

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

## 📁 今月のレファレンス記録票から

分類	質	問	と	内	容
----	---	---	---	---	---

I/C1 「中山」という地名は正中山法華経寺に由来するのか。また、「正中山(しょうちゅうざん)」の語源は仏教用語か。

「中山」の地名について以下の資料に記述があった。

- 『市川市の町名』(市川市教育委員会 1987)  
p.8 「中山」の項 「地名の由来は正中山法華経寺の山号からとったものと伝説では伝えていますが、東胤頼が源頼朝に献じた歌の題に中山の地名があつて、法華経寺ができる前にはすでにあつた地名のようです。」
- 『千葉県地名』(平凡社 1996)  
p.221 「中山村」の項 「中世には八幡庄谷中郷のうち。正和三年(1314)法華経寺二代目貫首日高は三代目日祐に「中山坊」を譲渡した、同年四月二六日の日高置文には「中山釈迦仏聖教」「北方堂中山本尊」などとみえる。元応二年(1320)十二月一日千葉胤貞は日祐に「八幡庄谷中郷中山堂地并田地式町・在家屋敷」を譲っている。これらにみえる中山坊、中山、中山堂は法華経寺の前身である本妙寺のことと思われ(後略)」  
p.221～222 「法華経寺」の項 「日蓮の檀越富木常忍(日常)が出家して邸を寺にした法華寺と、同じく日蓮に帰依した大田乗明(妙日、左衛門尉・金吾)邸跡に建てられた。本妙寺は当初両寺一主制をとっていたが、のちに合体して一カ寺となり、当寺が成立した。」「なお両寺が合体して中山法華経寺を名乗る(当初は妙連山を号した)のは天文十四年(1545)以降のことといわれている。」
- 『角川日本地名大辞典 12 千葉県』(KADOKAWA 2009)  
p.633 「中山」の項 「中山法華経寺蔵の多宝如来坐像建武2年(1335)3月6日付銘文に「下総国谷中郷中山本妙寺」至徳元年(1384)9月日付日尊申状に「八幡庄内本妙寺号中山堂」とあるように、中山堂のちに本妙寺と呼ばれ天文年間に若宮戸村の法華経寺と合して現在の中山法華経寺となったとされる。」
- 『大本山法華経寺 奉迎初祖日常聖人第七百遠忌』(中山法華経寺 1993)  
p.5 「若宮・富木殿の法華経寺、中山・太田殿の本妙寺は、のちに両寺を合わせて正中山法華経寺になりました。」  
これらの記述をみると、法華経寺ができる以前から「中山」という名称は存在し、山号が妙連山から正中山に変わり正中山法華経寺、一般に中山法華経寺と呼ばれるようになったのではないかと推測される。「正中山」の語源については『佛教語大辞典』(中村元/著 東京書籍 1981)等を確認したが「正中山」という言葉の収録はなかった。

449.8 伊勢暦について解説している書籍や資料はあるか。

- 『日本の暦』(渡辺敏夫/著 雄山閣 1977) p.213～260 に伊勢暦の起源や暦師について、体裁や記載内容などが解説あり。

- ・『暦を知る事典』(岡田芳朗／ほか著 東京堂出版 2006) p.136～138 に地方暦の一つとして伊勢暦の解説があり。
- ・『暦(日本史小百科)』(広瀬 秀雄／著 東京堂出版 1993) p.164～165 「有名ではありながら歴史の浅い暦」として解説があり。  
インターネットでは、国立国会図書館のホームページ内の電子展示会に「日本の暦」があり、「日本全国の地方暦 その1」に「伊勢暦」が図版入りで掲載されている。  
(<https://www.ndl.go.jp/koyomi/chapter2/s2.html> 2021.10.14 確認)  
また、国立国会図書館デジタルコレクションでも数種類の伊勢暦の画像を見ることができる。

983 テレビ番組で演奏されていたショーソン作曲の「詩曲(ポエム)」の元となったツルゲーネフの「勝ち誇る愛の歌」という作品が読みたい。

「勝ち誇る愛の歌」で所蔵検索すると『ロシア幻想短編集』(アルトアーツ 2016)に当該作品が所収されていることが分かった。市内・千葉県内に所蔵なし。また、Kindle版でも『勝ち誇る愛の歌』として出版されている。ウィキペディアに「勝ち誇れる恋の歌」の別題が「恋の凱歌」であるという記述が見つかり、改めて「恋の凱歌」で検索したところ、当館所蔵の『ツルゲーネフ全集 4巻』(日本図書センター 1996)に所収されていた。Kindle版の試し読みで冒頭が確認できたため「恋の凱歌」と比べてみたところ同様の書き出しだったため『ツルゲーネフ全集 4巻』を提供した。

 **G I V E U P !** ご存知の方はご教授下さい。

911.1 日本では古来より、三十六歌仙、富嶽三十六景など「三十六」という数字が象徴的に使われることがあるが、これは何か縁起や由来など数字に特別な意味があるのだろうか。

『平凡社大百科事典 6巻』(平凡社 1985) p.490の「三十六歌仙」の項目に「古今和歌集の六歌仙の六倍という数が人々に喜ばれ、平安朝後期には、中古三十六歌仙、女房三十六歌仙などが定められた」と記載があった。また、『数ことば連想読本』(槇 皓志／著 社会思想社 2000)の「六」の章の「六歌仙 三十六 六韜」(p.173)の項目に「ロクロクの「三十六」は、「六」の切なさを一気に吹き飛ばしてしまう、賑やかさをもっている感じがしないでもありません。」といった記載があるが、「三十六」の数字のもつ意味について明確に書かれている資料は確認できなかった。

## 他にもこんな質問ありました(クイック・レファレンスから)

分類	質問	⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など
C41.04	千葉県小湊町の変遷について資料はあるか	⇒『天津小湊町史 史料集1』(天津小湊町 1990)
378.2	難聴者へのノートテイクの仕方についての資料	⇒『大学ノートテイク入門』(吉川あゆみ／ほか著 人間社 2001)、『字が話す目が聞く』(上村博一／著 新樹社 1995)
489	クジラの発するクリック音の水中・空中での伝わり方について	⇒『水生動物の音の世界』(竹村暁／著 成山堂書店 2005)『動物の音声の世界』(Y.ルロワ／著 共立出版 1983)を紹介。
751.1	奥田 <sup>えいせん</sup> 頼川(江戸時代中後期の陶芸家)の作品が掲載されている本	⇒『日本美術作品レファレンス事典 陶磁器篇1』(日外アソシエーツ 2001) p.651の頼川の項目を掲示。その中から呉須赤絵の皿を希望されたので、掲載資料のうち中央図書館所蔵の『日本陶磁全集29』(中央公論社 1980)を提供。
E	小学校低学年向けに「からくり時計」を題材にした物語の絵本を探している	⇒『とけいのあおくん』(エリザベス・ロバーツ／さく 灰島かり／訳 殿内真帆／絵 福音館書店 2014)・『ヒギンスさんととけい』(パット・ハッチンス／作 たなかのぶひこ／訳 ほるぷ出版 2006)等を紹介。